



ヘラクレスの羽化に成功した、わかたけ授産場昆虫事業部（福井県越前市）

日本セルプセンターのホームページが、リニューアルされました！

日本セルプセンター新体制における活動の柱として「積極的な会員施設への情報発信」を挙げましたが、そのメイン舞台ともいえるホームページのリニューアルが完成いたしました。このメディアを活用して、日本セルプセンターが実施しているさまざまな活動をリアルタイムでご報告できるようにしていきます。今後はホームページに最新情報や仕事の斡旋情報・各種企画の募集を掲載するほか、各種企画への応募要綱等も会員専用ページに掲載していきます。日本セルプセンターのホームページを随時チェックしていないとお得な情報を逃すかも!!
どうぞ、定期的なアクセスをよろしくをお願いします。

また目玉企画として、「SELP 施設訪問ルポ」を連載いたします。全国のSELPでどんな事業が行われているのか。その具体的な姿を、事業(製品やサービス)・働く人たち(利用者や職員)にスポットを当てながら、お伝えしていきます。日本各地の施設を月に4回訪問し、施設の取り組みをさまざまな観点から取り上げていく予定です。どうぞご期待ください。また、「次にはこの施設を取り上げてみたら?」という情報(自薦・他薦問わず)も大歓迎ですので、日本セルプセンター事務局宛メール等でお知らせください。お待ちしております。
事務局メールアドレス center@selpjapan.net
ホームページアドレス http://www.selpjapan.net



特集：新会長&事務局長対談

会員施設のために 少しでも役に立てる 日本セルフセンターを めざして

川俣 宗則氏（日本セルフセンター会長）

清島 眞氏（日本セルフセンター事務局長）

日本セルフセンターが、新体制となって4ヶ月が過ぎました。「ネットワークづくり」「内需拡大」「情報発信」「企業との連携」「共同受注の促進」「デザイン支援活動」の6項目をテーマとした活動も、順調にスタートしています。今回は新会長、新事務局長のお二人に今後の活動について語り合ってもらいました。



日本セルフセンター会員施設の 情報ネットワークを早急に確立したい

—まず最初に伺います。新しく日本セルフセンターの役員になられたお二人が、まず実施したい活動は何なのでしょう？

川俣 そうですね、いろいろありますが、まず一つと問われれば「ネットワーク作り」を挙げたいと思います。全国には約4,000の社会就労センター（SELP）等があるのに、まだまだその実態すらよくつかめておりません。「こんなことをやっている施設はないか？」と日本セルフセンターに聞けば、すぐにお答えできるような情報を持つ組織になりたいですね。

清島 私は実は、この春まで福井県セルフ振興センターのセンター長をしておりました。地方の立場で、「日本セルフセンターがもっとこんな活動をしてくれたら…」という思いをいつも持っていたわけです。そんな私が逆

の立場になったわけですから、責任は重大です。中央ならではのネットワークを駆使して、ダイナミックな展開をぜひ次々実現したいと考えています。

販売チャンネルの拡大活動が 会員施設からは求められている

川俣 日本セルフセンターではここ数年、スポーツ文化事業に力を注ぎできました。しかし現状は、企業力を借りなければ実現できません。できるだけ早い時期にセンターが主体的にコーディネートし、みなさんが積極的に関わられる事業にしていきたいですね。国が主催する国体などのスポーツ・文化イベント会場で、キャラクター使用权を得て製品を販売できるこの事業は、セルフセンターにとって大きなチャンスだと思います。イベント実施の施設が集まって、共同でクッキーなどの製品を製造し、販売するという企画は、まさにセルフセンターのあり方そのものです。クッキーだけでなく今後はさまざまなグッズを企画して、さまざまな施設に参加してもらえるようにしていきたいと考えています。

清島 スポーツ文化事業だけでなく、日本セルフセンターとして会員施設の製品を販売できるチャンネルをもっと増やすことも大切ですね。そのために今回日本財団様の提案を受ける形で、ネットショッピングサイトを構築することになりました。かつて中央授産事業振興センターの時代に「パレット」というアンテナショップを運営していたと聞いていますが、まさにそのネット版です。会員施設の規模や要望にあわせた新しい販売チャンネルとして育てていきたいですね。



PROFILE プロフィール

川俣 宗則（かわまたむねのり）
昭和58年 杏林大学保健学部卒業
昭和58年 社会福祉法人川惣会・身体障害者療護施設「しらうめ荘」就任
平成元年 同法人重度身体障害者授産施設「しらゆり荘」施設長就任
平成14年 同法人理事長就任
平成19年 NPO法人日本セルフセンター代表理事就任

清島 眞（きよしままこと）
昭和44年 国学院大学法学部卒業
平成11年 社会福祉法人九頭竜厚生事業団「九頭竜ワークショップ」就任
平成12年 同ワークショップ就労部長・身障第二授産部施設長就任
平成18年 社会福祉法人はこべ福祉会はこべの家営業促進部長として勤務する傍ら、NPO法人福井県セルフ振興センターセンター長に就任。同年センター内に福井県若者サポートステーションを開設
平成21年 日本セルフセンター事務局長に就任

「デザイン」をテーマとした 会員施設への新しいスタイルの支援活動

清島 今年の大きな活動の柱の一つが、会員施設へのデザイン支援活動です。地方にいて、「いい製品なんだけど、もう少しだけセンスがあったら…」というシーンを多数みてきました。日本セルフセンターとして、事業をデザインする観点からも、もう少し何かお手伝いできないかと考えたのが、この企画の原点です。

川俣 デザインというと、パッケージデザインとか包装紙とか、単純に考えがちですね。でもこの企画が狙っているのは、もう少し幅広い観点でデザインをとらえています。地域の販売会で手作りのクッキーを売るためには、どんなプライスカードを作ったらいいのかとか、地元の人たちの共感者を増やすためにはどんな宣伝ツールが施設にあっているのかとか。根本的なことを現場の人と議論しながら、施設にあったデザイン提案を行っていく。これが今回の企画のめざすところです。今年公募で選ばれた5施設における支援活動の詳細は、ホームページで随時公開していきますので、どうぞ期待してご覧ください。

—ありがとうございました。センターの今後の発展に期待しています。

仲間たちでもっと製品購入について 協力しあう努力も必要だ

川俣 セルフセンターが設立されてからずっと「内需拡大」について議論されながら、会員施設の間ではなかなか浸透していません。もっと積極的に自分たちの仲間の製品を買うという努力をしてほしいですね。外の人に「自分たちの製品を買ってください」と訴える前に、どうして自分たちの仲間の製品をもっと買わないのでしょうか？ 私の施設では、月に一度は必ず給食にセルフ製品を出すように業者をお願いしていますよ。味噌やお豆腐、お米やパン・うどん、お茶も緑茶からハーブティー・コーヒー・紅茶に至るまで、定期的に出せるメニューはいくらでもあるじゃないですか。各施設が同じことをしただけでも、全体の売上は相当上がってくるはずですよ。

清島 そうですね。おっしゃるような活動を、みんなが進められるように、いろんな機会を通じて啓蒙運動を展開することも大切でしょうね。企業との連携も、今年度の重要テーマです。東京にはCSRという観点から私たちの活動に共鳴してくれる企業がたくさんあります。どんどん積極的に自分たちの存在をアピールして営業活動していけば、魅力的な仕事が掘り起こせるはずですよ。

川俣 企業との関係は、「ギブ・アンド・テイク」が最も大切だと私は思います。こちらからお願いばかりするのではなく、相手も喜ぶことをこちらも組織として積極的に受け入れる。そうでなければ、関係は長続きしていきません。



COMING SOON!

全国の障害者施設製品の逸品を販売するネットショップを構築中です。

すでに会員施設の皆様にはメールにてご報告しております通り、日本セルフセンターでは現在、販路拡大のための新たな取り組みとしてインターネットによる通信販売事業を企画。年末のオープンに向けて準備を進めているところです。

この企画は日本財団様が進める「障害者施設製品のブランド化プロジェクト」のスペシャルパートナー（運営団体）として日本セルフセンターが選ばれたことにより実施する事業であり、「授産製品という一般のイメージを超えた製品のセレクトショップ」の構築を目指しています。

福祉の世界にあって唯一、事業振興を目的として集まった団体である日本セルフセンター会員施設のノウハウを駆使して、積極的にこの活動に関わっていただければと思います。ECサイトの事業スタートや、ブランド名称の決定等の情報は、随時ホームページにて報告していきますので、ご注目ください。

topics 表紙の写真

福井県越前市にあるわかたけ授産場では、利用者の工賃倍増のための秘密兵器(?)として昆虫事業部を2006年よりスタート。マニアの間では高価で取り引きされるヘラクレスオオカブトを養殖する事業を始めました。暗中模索の取り組みでしたが、2年後にはついにわかたけ産のヘラクレス成虫が羽化。155mmクラスの巨大なオスには、1匹最高7万円という価格がつきました。

※詳しくはホームページ (<http://www.selpjapan.net>) の連載記事「SELP 訪問ルポ」をご覧ください。

notice

告知板

TV 全国物産館への事業参加は見合わせ！

先日の日本セルフセンターの総会でも、特別委員会を設置して参画を検討する旨を報告しておりました『TV 全国物産館』は、特別委員会で検討を重ねた結果、事業参加を見合わせるようになりました。

日本ハム販売(株)様からの作業発注が決定

日本セルフセンターでは、かねてより日本ハム販売(株)様と業務提携していますが、このほど指定エリアでの作業を受注することが決まりました。今回の受注は、景品の袋詰め作業、約15万袋分の業務となります(10月中旬～下旬を予定)。さらに、今年中には同社流通センター(関東エリア)での障害者雇用等につなげる、企業のCSR活動事業についても、当センターと連携していく予定です。作業募集の詳細は、該当エリアの各会員へメール、またはホームページにてお知らせいたします。

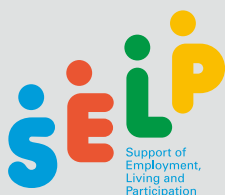
自主作業種別部会からの報告

●ウエス部会

日本セルフセンターウエス部会では、事業の協同受注化を推進するため、当センターを窓口にして、ヤマト財団様の協力を得ながらヤマトオートワークス(株)様へ共同販売事業の提案をしています。そこでウエス部会が中心となって均一の規格・品質基準を設け、これにそってウエスを作る施設を募集します。申し込みは当センターまで。なお、10月29日(木)に、山口・セルフ藤山にて説明会を開催いたします(詳細はホームページを参照ください)。

●農産部会

日本セルフセンター農産部会では、公開セミナーとして12月2日、『月と海水—農業の未来を開く』と題し「第2回・全国海水(塩)農業セミナー」を開催します。海洋国日本を再発見する新しい農業方法を学びます。地域の特性を活かした農業授産を目指す関係者の方々、ぜひご参加ください。



セルフセンター情報 第24号

平成21年9月30日発行 発行所 特定非営利活動法人 日本セルフセンター
〒160-0022 東京都新宿区新宿1-13-1 大橋御苑駅ビル別館2F

発行人: 会長 川俣 宗則 編集人: 嶋田富士男

TEL: 03-3355-8877 FAX: 03-3355-7666

<http://www.selpjapan.net/> E-mail: center@selpjapan.net